

## 検証委員会聴取記録

○聴取日:平成29年5月15日(月)13:35~14:50

○内容:事故当日の状況や動き等について

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
委員	説明	当初の計画を中止し、歩行訓練に変更した経緯、事故発生後の対応、センターハウス前での指示状況、各班の行動及び各引率者の指示や動きなど、これまでの情報から確認しておきたいことについて、質疑を行いたい。		
委員	質問	まずは気象状況について伺いたい。		
			参考人 a	低気圧性の雪のため、崩れやすい。崩れやすい雪の層10~20cmの上に更に30~50cmの積雪があった。ふわふわとした雪質で、速度が速い。50cmの層が滑って、300メートル弱流れている。
委員	質問	断面観測の結果はどうだったか。		
			参考人 b	翌日の調査において、22~25cmの層が最弱で、その前後も弱い。積雪安定度は0.57で不安定。通常は1.5か2か4程度が普通。プッシュゲージ測定。
委員	質問	掘っているときに崩れたりしたか。		
			参考人 b	崩れはしないが、柔らかかった。
委員	質問	調査場所はどのあたりか。		
			参考人 b	標高1350m付近で、救助の行われた1400mよりやや下。1班の行動していた尾根の左横の沢、樹林帯の中で傾斜35度東向き斜面である。
委員	質問	破断面はどうなっていたか。		
			参考人 b	面発生か点発生かは不明。
委員	質問	救助の頃から吹雪き出したが、それによる雪質への影響はどうか。		
			参考人 b	表面から1.6cmのところは日射により固くなっていた。1.5~9cmのところはやや固く、風の影響と思われる。
委員	質問	そこは吹きだまるところか。		
			参考人 b	吹きだまってもおかしくない場所である。
委員	質問	2班のルートについて、午前中の内容を確認したい。もう一つ下流側の斜面ではないか。1班のルートから一つ下の尾根ではないか。		
			参考人 O	おそらくそうかもしれない。1班とは違う尾根だった。(委員の手元にある地図で確認)
委員	質問	計画変更後の説明時には資料を配付したか。		
			参考人 G	そのための資料は作成していないが、教員間で話し合った。

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
委員	質問	悪天候の時用の資料を用意したか。		
			参考人G	そういうことはしていない。
委員	質問	「スキー場の周辺」というのはどの範囲か、教員は分かっていたのか。		
			参考人K	説明の際、スキー場の案内板を使って説明した。危険箇所の確認もした。
委員	質問	資料はないが、案内板を用いて理解を図ったということか。		
			参考人K	はい。
委員	質問	参考人Gも同じか。		
			参考人G	参考人Kが講師として周知してくれた。
委員	質問	案内板には樹林帯も入っていたか。		
			参考人K	はい。
委員	質問	危険箇所も案内板で説明したのか。		
			参考人K	参考人Oの方から案内板で説明した。
委員	質問	ビーコンの装備はしなかったのか。		
			参考人G	雪崩の起こりそうな所には行かない講習と考えていたため、ビーコンを装備する感覚はなかった。
委員	質問	直接でもよいから、学校保護者に連絡してもよかったのでは。緊急連絡網など作成していなかったのか。		
			参考人G	4月の総会時に（教員間の）緊急連絡網を配付している。 当日は警察に通報後に現地に行ったが、（本部として）一人しかいなかったため、電話の問合せに対応できなかった。
委員	意見	体制づくりに問題があったかと思う。生徒・保護者の携帯（連絡先）に関する消防等からの問合せに、学校（大田原高校）が対応できていなかった。		
			参考人G	こちらで、誰が無事で誰が被害を受けたか把握しきれなかったため、学校からの問合せにも答えることができなかった。 混乱していたため、無線で入る死亡や病院搬送の情報も学校に流せなかった。
委員	質問	名簿はどうなっていたか。緊急連絡先はなかったのか。		
			参考人G	参加者名簿は作成したが、連絡先の記載はなかった。
委員	質問	緊急連絡先はどこにあったのか。		
			参考人S	学校のパソコンの中に入っている。
			参考人G	部員名簿の印刷した物はあった。

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
委員	質問	登山計画書に必要事項を入れて持って行くべきではないか。		
			参考人G	連絡先までの情報はなかった。
			参考人K	(連絡先名簿は) 各学校にはある。
			参考人G	名簿は各学校ごとに持っている。顧問が持っている。
委員	質問	リーダーが持っているべきだったのでは。本部にはなかったのか。		
			参考人G	なかった。
委員	質問	パーティーごとの連絡先は持っていたか。		
			参考人K	名前のみの名簿しか持っていない。
委員	質問	参加申込書は持って行っていなかったのか。		
			参考人G	参考人Mが各校の申込書から名簿を作成した。申込書そのものは持っていない。
委員	質問	パーティーごとの名簿が、講師のもとにはっていないのか。		
			参考人G	連絡先が入ったものはいっていない。
委員	質問	学校ごとの計画書は作成されているか。		
			参考人G	作成されている。
委員	質問	学校単位の名簿は集めていないのか。		
			参考人G	はい。
委員	質問	各パーティーの行動の指示はどうやったか。先頭は誰か。		
			参考人K	班により異なる。危険な箇所については、教員が先頭になる。 1班は生徒が先頭で、参考人Kは最後尾だった。出発前に概要説明した後、途中で止めながら、目印を指示しながら行動を指示。
委員	質問	2班はどうか。		
			参考人O	地形図は出さない。1班と同様に、リーダー生徒が先頭で教員が最後尾。生徒に目印を指示しながら登った。
委員	質問	3班はどうか。		
			参考人J	すぐ上に1班。足場がしっかりしていたので、生徒が前で教員が後ろ。
委員	質問	4班はどうか。		
			参考人P	ゲレンデは生徒が前。体力差により生徒の間が離れたため、中間に入った。
委員	質問	5班はどうか。		
			参考人I	教員先頭を基本に、ローテーションでゲレンデ内を移動していた。
委員	意見	地形図上でここまで行く、ということではなかったか。夏山と同じようなやり方で、危ないから教員が先頭で様子を見て、みんなを呼ぶという形ではなかったか。		
			参考人I	地形図上で明確に最初からここまでという形ではない。

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
委員	質問	地形図やコンパスを生徒は持っていたか。		
			参考人K	持っていたが見てはいない。
委員	質問	磁北線は書かれていたか。		
			参考人K	分らない。地形図上でも、自分自身深い尾根が分らない状況であった。
委員	質問	これまでのことで記憶違いの訂正はあるか。		
			参考人K	ICU入院中に整理していた。時間については、出発と樹林帯を抜けたのが8:30のところは確かであるが、他はおおよその時間である。
委員	質問	参考人Oはどうか。		
			参考人O	時間の正確さは目安程度という以外にはない。
委員	質問	参考人Kは「ラッセル」という言葉を使ったか。どういう言葉で説明していたか。		
			参考人K	ラッセル訓練という言葉を使った。また、昨日のキックステップを使って行こうと言った。日程の変更を伝え、9:30には戻る。1時間半の行動にすると伝えた。併せて危険箇所の指示を行った。
委員	質問	危険箇所の認識はどうだったか。		
			参考人K	第1、3ゲレンデの末端。急斜面である。当時は視界不良のため見えていなかった。
委員	質問	第1ゲレンデが危険と言ったが、誤解はないか。		
			参考人K	第1と第2を取り違えていた。今気が付いた。当日は、図で説明していた。
委員	質問	途中の岩は活動の想定範囲だったか。		
			参考人K	樹林帯を抜けた辺りを当初はイメージしていた。生徒の言葉もあり進んでしまった。
委員	質問	活動範囲の説明はゲレンデだったのか。		
			参考人K	スキー場及び樹林帯を使って、と説明した。
委員	質問	どこまで登るか決めていなかったのか。		
			参考人K	そこまでは明確に指示していなかった。
委員	質問	キックステップとはどのようなものと認識しているか。普通、急斜面で行うものだと思うが。ラッセルとは、つぼ足のことか、キックステップのことか。		
			参考人K	キックによりステップを作って登っていくもの。前日の訓練でも、急でない斜面でキックステップを練習した。当日のゲレンデは膝下半分くらいの雪。歩いてへこんだ所の後をついて行くの（つぼ足）をキックステップと考えて行っていた。

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
委員	質問	説明上は、ラッセル訓練とキックステップを混同して皆は理解していたようだ。急斜面でやることを想定していたか。		
			参考人K	急斜面に行こうとは考えていなかった。
委員	質問	樹林帯とその上の斜面の積雪状況はどうだったか。		
			参考人K	樹林帯はゲレンデよりやや深い。その先はまた膝下ぐらいだった。
委員	質問	固くなかったか。キックステップは不要な固さだったか。		
			参考人K	多少固かったが、特に大変なほどではなかった。

## 検証委員会聴取記録

○聴取日:平成29年5月15日(月)14:50~15:35

○内容:事故当日の状況等について(山岳救助、スキー場関係者等)

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
委員	質問	事故当日の状況について救助等に携わった方々にお話を伺いたい。		
			参考人 c	当日の朝、6:30頃起床、雪がずいぶん降ったという印象。用事があって湯本まで降りて戻ったのが9時頃。雪崩発生と聞いたので、スキー場の中で起こったのだと思った。警察に連絡し救助隊の連絡網を回し、9:30頃現地に到着。現地で聞いたところ、現場が向かいの尾根だということで大変なことになったと思った。自分はヒュッテの辺りで誘導していた。ヒュッテ前も膝くらいまでの積雪。歩くのも困難な状況なのでスキー場の人に圧雪車を使用することを依頼。後から来た隊員には圧雪したところを登って救助に向かうよう指示。
委員	質問	スキー場関係の方からお話を伺いたい。高体連と町との関係は？		
			参考人 d	9:50頃連絡を受け、課長補佐に現地へ向かうよう指示した。今年は雪も少なくスキー場のオープンも遅く、3月20日まで営業していた。「トイレを借りたい」という電話での要請のみを受けていた。
委員	質問	記録では最初は昭和59年と記載されている。		
			参考人 c	冬山研修をやるんだということで高体連の方が私の所に最初に相談に来た。講習会は3月25日頃なので、3月20日には営業が終了するスキー場がよいのではないかと提案をした。町にも話をしておいたので、その後高体連から施設を借りられることになったと連絡があった。最初はバス3台くらいでやってくるような大所帯だった。かなり昔から行われていたが、当初から私の所を本部ということで2人くらいの先生方が利用されていた。
			参考人 h	昭和60年頃の記憶だが、町の職員がトイレのある施設の施錠を行っていた。しかし、3年後くらいからは、同じことをやるということなので、その鍵を貸し出すことになった。
委員	質問	スキー場といったら、どの辺までを指すのか。ゲレンデのみなのか。樹林帯も含むのか。		
			参考人 h	含まない。ゲレンデのみをスキー場と定義。
委員	質問	スキー場の安全な利用について、といった啓発はどのように伝えているのか。 高体連関係者に鍵を貸し出す時に、注意喚起を行っていなかったのか。		

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
			参考人 i	ゲレンデ内を利用する人に対しての注意喚起、ゲレンデ内のパトロール等を実施することで安全を呼びかけていた。講習会の中身は知らない。事務的にトイレを貸し出すことしか話を聞いていないので、講習会の内容についても把握していない。ゲレンデを使うことは把握していなかった。
委員	質問	30年もやっている行事で、ゲレンデの上まで使用していることを把握していなかったのか。ゲレンデ外まで使用している認識はなかったのか。テント設営地としか考えていなかったのか。		
			参考人 c	ゲレンデの中でやっているのは来た当日ぐらいで、次の日はゲレンデより少し外れて実施し、最終日は頂上を目指していき昼前に戻ってくるという姿を毎年見てきた。今テントを設営しているのは環境省管轄の所だが、昔は子どもたちがそり遊びをしていたところでテントを設営していた。
			参考人 i	テント設営地から歩いてきてトイレを利用しているということは把握している。
委員	質問	過去にあの場所で雪崩が発生したことは把握していないか。		
			参考人 c	今回の発生場所での雪崩は、私が小さい頃に数回あったことを把握している。3月中旬以降だったが、その当時は天狗の鼻の下の辺りにはほとんど木が生えていなかった。毎年ではなかったが地雪崩があったと記憶している。その後の大きな事故は、昭和44年2月9日にスキー場の斜面で表層雪崩が発生したことだった。その時は高体連のスキーの予選会が行われていて、今回のように前日にたくさん雪が降った。また、その年の3月5日ロープウェイの職員がスキーでゲレンデまで降りる途中、雪崩にあってしまい亡くなったことだった。今回発生した場所での雪崩はあまり記憶にない。
			参考人 e	今回発生した場所は雪崩が起きてもスキー場まで雪が落ちてこない場所である。従ってスキー場では雪崩の発生を把握しにくい場所でもある。
			参考人 c	今回は入らなかったが、天狗の鼻の下から雪崩が起きるとだいたい雪がゲレンデに入っていた。
委員	質問	それは地雪崩で表層雪崩ではなかったのか。		
			参考人 c	この前のは表層雪崩だが、これまでの大きな岩が流れていたりする地雪崩だった。あの場所（今のゲレンデ）は、スキー場ができる前はスキー愛好家がよく入っていた場所だった。

質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
委員	質問	スキー場が開業している時に、その日の営業をするかどうかを判断していたのは誰か。		
			参考人 c	当時は、スキー場の職員が、朝オープン前にパトロールをして判断をしていた。
委員	質問	微妙な判断する場合の要素はどのようなものであったか。		
			参考人 h	昭和60年頃から4年間くらいのことを覚えているが（今でもそれほど状況は変わらないと思うので）、雪が降り次の日に風が吹くと、天狗の鼻の下に雪庇ができるのでそれが判断の一つ。それから、雪の重さ等も参考にした。雪崩が起きるのは朝方5時か6時くらいなのでその頃には人はおらず、スキー場に雪が流れてくることもなかった。今回発生した場所は林になっているのでスキー場には雪崩は落ちてこない。それより斜面に向かって右側の絶壁の方が影響があるのでよく見ていた。それにしても、天狗の鼻の所は雪がついているかを判断するのによいところなので、そこはよく見ていた。
委員	質問	仮に3月27日にスキーをやらせるかどうかという判断をしたとしたら、どのような判断をしたか。		
			参考人 h	上が見えなくて吹雪いている時にはゲレンデに入れないのが鉄則。今回はたまたま27日に雪が降り積もったが前日は第1ゲレンデの所に土が見えていた位なので、麓にいた我々はそれほど警戒していなかった。新雪があり上が見えない時には第2・3ゲレンデには人を入れないのが基本なので、もし仮に3月27日に営業していたとしても閉鎖していたと思う。
委員	質問	引率教員の間でも第2・3ゲレンデには入らないようにしようという判断があったようだが、上が見えないから怖いのか、上から雪が落ちてくるのが予測されるからなのか、どちらだと思うか。		
			参考人 h	上から雪が落ちてくるということは先生方はわかっていたので、右側のエリアには立ち入らないようにしようと決めたのだと思う。上に雪が降ったら町の職員でも行かない。
委員	質問	現場をよく知るスキー場関係の人たちに、これまで他の団体からこのような場所で行事を行うことの可否について問い合わせはなかったか。		
			参考人 h	ない。営業期間中は当然使用許可を求めてもこない。高体連とは長いつきあいだが、使用許可を求めてきたのはトイレとトイレまでに歩くゲレンデの一部のみ。ゲレンデ上部を使用するのは想定外。



質問者	区分	質問・指示事項等	回答者	回答事項等
委員	質問	もしも微妙な判断を求められたとしたら町としてはどう対応するのか。		
			参考人 h	地元の山岳会や観光商工課に問い合わせるように指示したと思われる。
委員	質問	判断を求めるとしたら誰に求めるべきなのか。		
			参考人 h	スキー場の管理者か観光商工課施設係ではないか。
			参考人 d	職員は異動もありベテランが必ずしもいるとは限らないので、そのような判断はできないと思われる。地元の方ならまだしも、行政で判断するのは難しいと思われる。
委員	質問	一度スキー場を閉鎖している理由は。		
			参考人 h	雪がさらさら落ちる感じはよくない兆候でそれが見られたから。
委員	質問	風がどちらの方向から吹くと雪が降りやすいのか。東風の時はどうか。		
			参考人 c	北西。福島で雪が多いと那須町にもたくさん降る。今までは雪が降ると風が吹いていたので雪も飛ばされて残らなかった。それが今では雪が湿り気を帯び残るようになった。この4～5年で雪質が変わった。